

○事務局(島田) それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第3回調布市立図書館協議会を始めます。

本日はお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

まず始めに、開会に先立ちまして、図書館長の小池からごあいさつ申し上げます。

○小池館長 皆さん、こんにちは。今、司会からもありましたように、本当にお忙しい中、足をお運びいただきまして、ありがとうございます。まだお2人、お見えになっていないようですけれども、会議を進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

前は7月に協議会が行われて、その中で、各委員からの考えということでお出しいただいたところではあるわけですが、また引き続き、それを今日は続けてということになるかと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

図書館も50周年ということの中で、いろいろなイベントを企画してきたところではあるわけですが、先日行われました記念の展示会、トータルで260人ぐらいでしょうか、御参加いただきました。かなり昔の利用状況を御存じの方もいらっしゃいましたし、図書館の物といいましょうか、カードケースに入った目録カード自体なども見たりして、懐かしがったり、あるいは昔はこうだったのねというようなお話をされている方もいたかなと思っております。

また記念にということで、禅寺丸柿の調査の報告ということで、会をつくったわけですが、禅寺丸という品種の柿がなぜ調布にあるのかとか、どのようにして調布に渡ってきたのかとか、そういう内容の報告があったわけですが、御参加いただいた方には、川崎からいらっしゃった方もいらっしゃいまして、自分の身近なものが、そのような形で長い歴史の中で伝播してきていると

いうことに、民俗学的なことも含め、興味深くお聞きいただけたかなと思って
いるところです。

図書館で、そういうことを調べることについて、協力してということであつたわけですが、いろいろな形で市民が知りたいと思うこと、あるいは伝えていきたいということについて、図書館がサポートしていくということは、図書館の機能として十分発揮できているのかなというようには思ったところではあります。

そんなことで、今後の図書館を考えていただくということの中で御意見を頂きたいと思いますので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

○事務局（島田）　　ここで本日の職員の体制でございますが、調査支援係長の返田が欠席しておりますことを御報告いたします。

続きまして、「委員長及び副委員長の選任について」です。調布市立図書館条例施行規則第15条の規定に基づきまして、委員長及び副委員長は委員が互選すること、任期は1年となっております。

委員長、副委員長に立候補していただける方はいらっしゃいますでしょうか。——いらっしゃらないようですので、今回は誠に勝手ではございますが、立候補者がいらっしゃらなかった場合にお引き受けいただきますように、館長の小池からお声を掛けさせていただきました委員がいらっしゃいます。委員長には野末委員、副委員長には大作委員です。

ここで皆様にお諮りいたします。野末委員を委員長とすることに、大作委員を副委員長とすることに賛成の方は挙手をお願いいたします。

（賛成者挙手）

どうもありがとうございます。全員一致によりまして、委員長は野末委員に、副委員長は大作委員に決まりました。

続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。

資料番号の付番がない資料ですが、平成28年度第2回調布市立図書館協議会議事録（案）です。

資料1は、平成28年度上半期の利用状況報告です。

資料2は、新電算システム稼働状況の報告についてです。こちらは事前に送

付をさせていただきます資料になります。

議題第3号で使用する資料といたしまして、前回の第1回協議会の資料1「調布市立図書館のあり方について（各委員からの提出分）」を御持参いただいているかと存じます。

追加資料4点を机上に置かせていただきました。1点目、「水木しげる氏のコーナーを設置しました」というホームページの印刷になりますが、こちらのチラシは後ほど館長の小池から、それとピンクのシールブックと白いイラスト入りの2点のしおりは、副館長の福島から、それぞれ御説明をさせていただきます。

4点目は、平成28年度調布市立図書館利用者懇談会のチラシです。こちらは御案内のためのものです。今回のテーマは「新ぴゅー太を使いこなそう」です。御都合がよろしければ、ぜひ御参加いただきたいと思っておりますので、御一読くださいますようお願いいたします。

もう一枚、新聞記事がございます。松田委員からのお知らせです。御案内がありましたら、松田委員、お願いいたします。

○**松田委員** 夏にオリンピックセンターで全日本小学校学校図書館研究会の大会がありまして、調布の学校図書館の宣伝をしてみました。調布は学校図書館が充実している、その背景には、すばらしい市立図書館があるということ、声を大にしてお話しさせていただいたので、皆さんに御覧いただきたくて、コピーを持ってきました。よろしく申し上げます。

○**事務局（島田）** 資料は以上になりますが、おそろいでしょうか。

それでは、野末委員長、どうぞよろしく申し上げます。

○**野末委員長** では、改めまして野末でございます。よろしく申し上げます。期の途中ということもありますので、継続してお引き受けをさせていただこうと思います。どうぞよろしく申し上げます。着席させていただきます。

調布のこの図書館協議会は、まず年度と期がずれていて、7月が切れ目になっているのですね。だから、年間4回あるのですけれども、年度内の3回目か

らがスタートということになっています。今日がその3回目に当たるはずで、この期からもう一年が一年のサイクルです。皆さんの任期は2年間なのですが、その途中で1年ごとに委員長、副委員長を選任するというスタイルになっていて、その都度、確認をしていくのはいいことなのかなというように思っています。

それでは、きょうも皆さんにたくさん語っていただく場面がございますので、なるべくスムーズに進めてまいりたいと思います。

私からのごあいさつは以上で、大作副委員長から一言、いかがでしょうか。

○**大作副委員長** 私も期の途中ということなので、継続してお引き受けしました。今まで大学にいたのですが、4月から学校図書館の現場で、司書教諭として、教員として現場のことを学んでいますので、そのことを、この協議会でも還元できたらなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○**野末委員長** それでは、改めまして、平成28年度第3回調布市立図書館協議会を開会いたします。

まず初めに定足数の確認をいたします。本日の出席委員について、事務局からお願いいたします。

○**事務局（島田）** 御報告いたします。本日は12人御出席いただいております。調布市立図書館条例施行規則第17条第1項に規定しております定足数に達しております。

以上でございます。

○**野末委員長** ありがとうございます。定足数に達しているということで、引き続き進めてまいります。

次に、非公開とすべき議題についてお諮りいたします。本日は御覧いただいているとおりの議題ですので、非公開とする理由、特にないと思います。御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございます。御異議ないものと認めます。

また、本日の傍聴者の定員ですが、5人といたしております。本日の傍聴希望者について、事務局から御報告をお願いします。

○事務局（島田） 御報告します。本日の傍聴希望者は1人です。

○野末委員長 それでは、傍聴希望者がいらっしゃるということなので、入室を承認したいと思います。議題の第1号が終わりましたら、御案内をお願いします。

では、議題の第1号「平成28年度第2回調布市立図書館協議会議事録（案）の承認」についてです。

こちらの資料は先日、開催通知と併せて送付を受けております。委員の皆様には御確認いただいているかと思いますが、修正のお申し出はございますでしょうか。どうぞ、お願いします

○高野委員 高野ですけれども、26ページの上から8行目のところの終わりをカットしていただきたい。8行目、ジョイントさせて、「それを市民なら市民の映画狂、マニアの人たちに」というようにしていただきたい。

それともう1つ、27ページの真ん中辺の行変えのところ、「その次のページに行きまして」というところがありまして、その2行目、「福祉法人がユーフォーを5個か6個」と書いてあるのですけれども、これは各校ごとにユーフォーという、授業が終わってから下校までの間に子どもたちを預かるというのを、ほとんど各校ごとにやっているの、学校の「校」にしてください。「5個か6個」というのを「5校か6校」でお願いいたします。それだけです。

○野末委員長 ありがとうございます。確認しますね。27ページの4段落目というのか、その2行目に「ユーフォーを5個か6個」というのを、学校の「校」ですね。「5校か6校」というように、これは訂正する。承知しました。

それからもう一個は26ページの8行目ですね。では、「市民なら市民の映画狂、マニアの人たちに」という感じでよろしいですかね。わかりました。

○高野委員 よろしくお願ひします。

○野末委員長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、修正を踏まえた上で、事務局は署名の手続をお願いいたします。前回指名を受けているのは進藤委員でよろしかったですかね。後ほど署名をお願いいたします。私と連名でということになります。

○進藤委員 はい。

○野末委員長 では、以上で議題の第1号を終了いたします。

事務局は忙しくて済みません。傍聴の希望者の方を御案内ください。

(傍聴者入室)

それでは、審議に戻りたいと思います。議題の第2号が「平成28年度上半期の利用状況報告について」です。これは小池館長から御説明をお願いします。

○小池館長 では、資料1をお願いします。上半期ということですので、4月から9月までの状況であります。

表の見方としましては、3カ月ごとに小計を入れてあります。また下段のほうには前年度、平成27年度の累計との比較がわかるようにしてあります。一番下のところを見ていただくとわかるように、マイナスになっているところはかなりあるのかなというところでもありますけれども、少しプラスのところもあつたりします。

マイナスになる要因としては、大きく2つを考えておまして、1つには、染地分館が約1カ月、例年と違って休館をしたこと。比較的利用の多い館であつたということ。それから、図書館が9月から10月にかけて休館をしたということ。電算システムの入替えということで、9月26日から10月5日まで、10日間ほど休館したもののうちの半分ぐらいが、例年よりは開館日数が少なかったと思っております。そういう影響はありながらも、全体に減少傾向

にあるということは引き続きあると思っているところであります。

状況の報告としては以上になります。

○野末委員長　ありがとうございます。それでは、御意見、あるいは御質問のある委員は挙手をお願いいたします。——大丈夫ですか。今、コンパクトに傾向を、特徴も御説明いただいたので、よろしいかなと思いますが、皆さん、この後の議題のために時間を節約してくださっているというような気がします。よろしいですか。

それでは、もし何かございましたら、後ほどでも結構ですので、おっしゃっていただければ、ここに戻りたいと思います。

以上で議題の第2号を終了いたします。

続きまして、議題の第3号です。本日のメインになりますが、「これからの調布市立図書館のあり方を考える～続～」となっております。前回、私の進行が悪くて、予定の半分ほどしか進みませんでしたので、今回、その続きということで参りたいと思います。

お手元に前回の協議会の資料の1，インデックスをつけていただいているものですが、皆さん、お持ちになっていらっしゃいますでしょうか。大丈夫ですか。これに加えて、今日、松澤委員の追加分が1枚あったと思います。ワープロで打ってくださっています。これ、この用紙の上に合わせてワープロで打ってくださったのですか。

○松澤委員　そうです。

○野末委員長　ありがとうございます。お手数をおかけしました。

それでは、こちらを基に前回と同様に進めますが、一応確認だけしておきますと、今期、来年の7月の来年度の第2回の協議会のときに、何らかの形で御報告書なり、まとめなりという形で、この協議会としての議論の成果をまとめたいということを目指しています。そのときのテーマは、少し大きく、調布市の図書館のあり方について、短期的なものから長期的なものまで考えていこうということになっていました。

急に新館を建てるとか、改装をするとか、計画があるわけではなくて、かなり長期的なものは長期的なものとして、それからすぐできるようなことはすぐできるようなものとして、我々、協議会として提案というか、御意見を、図書館に対して、あるいは教育委員会、ないし市に対してお伝えしていくという趣旨でございます。

ですので、我々としては、皆さんお一人お一人が、それぞれの委員の選出のお立場も踏まえつつ、お考えのことを自由に語っていただいて、それを基に、ここでまた自由に意見交換をしていこうということで、前回と今回、時間をとっております。

この後、どうなるかということをお先に申しあげた方がよろしいかと思うので申しあげておきますと、7月に何らかまとめなければいけないので、その前の5月には素案のようなものができていなければならないということになります。そうすると、その前の恐らく1月、つまり次回なのですが、そのときには骨子のようなもの、こんな論点がありますよね、こんなような形でまとめたらいかがでしょうかということをお用意しておくということになります。

ですので、その骨子というのですか、こんなことが論点でありますねということで、特に、これは短期的にすぐできそうなことですよ、これは中期的な話、これは長期的にぜひ考えてほしいことですよ、少し見取り図をつくっておいて、それをもとに全体の整理を次回しようということですよ。

並行して、前から出ておりましたが、人事というか、人の問題です。全てを支えるのは図書館の職員の皆さんですので、この機会ですので、職員の問題についても次回はテーマを一つ掲げて、意見交換をしたいと思っています。

大体そんな進め方で、前から申しあげているのと多分、齟齬はないと思うので、進めさせていただければと思います。ちなみに、骨子は誰が作るのかということになるわけですが、多分、私が冬休みの宿題をやるということになるとは思っております。ただし、その後の素案というか、原稿を作る段階、我々が文章を作る方がよろしいと思いますので、そのときにはぜひ皆さんにも御協力をいただければと思っております。わかりやすく言うと、少し宿題が出る形に、骨子を確認する方と文章を実際につくられる方と分ける形になるかもしれませんが、ぜひ御理解、御協力をいただければと思っております。全員の総意とし

て、良いものを作り上げていきたいなと思っています。

それでは、前回の資料の1ということで、今日は本当に忌憚のないところを、異なる御意見が出てきても構わないと思っておりますので、皆さんの思いを語っていただいて、それについて、皆さんからの御意見をどんどん出していただくという会にいたしたいと思っております。

それで、今回はこちら（委員長から向かって右列）半分からということだったのですが、たしか柘委員は残念ながら御欠席だったというように思っておりますので、こちらの順番に従って、柘委員、そして安本委員でよろしいですかね。ですので、今日は6名の方に、それぞれの、お書きになったことを改めて簡単に御説明をいただいて、ここにかける思いのようなものもぜひ語っていただき、それを基に少し意見交換をしたいということです。

6人ですので、計算ができませんが、恐らく御説明と意見交換を踏まえて、多分お一人当たり10分から15分ぐらいあるのかな、そういう計算になると思います。

それでは、安本委員から進めていきたいと思えます。前回の続きということですので、この流れで、柘委員はラスト、まとめていただくという形にいたしましょう。

では、よろしく申し上げます。

○安本委員 安本です。よろしくお願ひいたします。

まず最初に、私のレジюмеで、ちょっと助詞が変なところがございますので、その訂正をお願いいたします。私のレポートの1枚目で、「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」というような大きい項目を立てておりますけれども、その「いつでも」です。「いつでも」の一番最後の行です。「ボランティアに参加することの価値は」にしていますけれども、「価値を」にさせていただきますでしょうか。お願いいたします。「ボランティアに参加することの価値を参加者は得ているか？」に訂正をお願いいたします。

そうしましたら、進めていきたいと思うのですがけれども、私、レポートを書くに当たりまして、大きな①、②、③というように枠組みを考えました。まずは、現在、どのような役割と機能を調布の図書館が担っているのか、確認をす

ること。そして、現在の課題は何であるのかということ。そして、その課題を踏まえて、③番目、今後のサービスといったことにどういう希望を入れていけばいいのかというように、大きく3つに分けて考えていきました。

項目に入る前になのですけれども、私にとっての図書館というものの捉え方を最初にお話ししておいた方がよろしいかと思うのですが、昨日、石巻の大川小学校の判決が出ました。私が印象的だったのは、原告の方たちが、「先生の言うことを聞いていたのに!!」という、大きな横断幕を掛けて、記者会見をされていました。その言葉がとても私は印象的で、先生の言うことを聞いていたのに、ああいう大きな事故が起こってしまったということだったと思うのです。ただ、ちょっと誤解があっては困るのですけれども、指示することの限界といったものがあるのではないかと。もちろん学校側の責任はこれから社会的にも問われていくものだとは思いますが、やはり予想すること、指示することの限界というものも併せて考えていかなければいけないのではないかと。

これは、子どもたちだけではなくて、私たち市民みんなが情報に対する積極性というものを、これから育んでいかなければいけない、そんなように感じました。情報に対する積極性を持つことによって、さまざまな障害の中で生き抜くこと、それは子どもであるということだとか、加齢、あるいは心身の障害、未熟さ、地域が持っている不自由さ、そういったさまざまな障害の中で私たちは生き抜いていかななくてはいけなくて、情報が、その障害を飛び越える大きな役割を果たしていくと思います。その情報を収集し、そして提供する、保管する、この図書館の役割というのは、ただ教育の場面といったことだけではなくて、私たちの生活の中でもっともっとこれから重要になってくるのではないかと考えています。

例えば、これから私たち皆、年をとっていき、そして高齢化の社会を迎えると言われていきますけれども、市民一人一人が健康についての情報を積極的に集める、そしてそれとかかわり、活用していくということは、私たちのこの市の生活自体の向上をもたらすものだと思うのです。ですから、狭い意味での教育だとか、学習だとか、そういったものを超えて、もっと広い連関の中に図書館といったものを位置づけていかなければいけないのではないかと。そんなように考えて、このレポートをまとめました。

では、レポートの説明に移ります。全部読んでいると時間が足りなくなりそうなので、かいつまんでお話をさせていただきます。

まず調布の図書館の最大の特徴は、本館と10分館からなる、この施設群だと思います。この施設群は、図書館が目指す「いつでも、どこでも、だれでも気軽に利用できる」という目標を支えています。それぞれの細かい事業が、「いつでも、どこでも、だれでも」というのを、具体的にどう実現しているのか、支えているのかということ、昨年の事業報告と、それから今年の事業計画という、この2つを基にして私なりに割り振ってみたのが、一番最初のページの、「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」の表です。もちろん、ここに書かれていることを落とし込んだものなので、不足はあるかと思えます。

次のページをお願いいたします。具体的な活動を目指し合わせてみますと、図書館が市民一人一人の状況に寄り添い、利用のハードルを取り除こうと努力している姿勢が見て取れます。特に、読書環境へのアクセスを支える音訳者、点訳者、布の絵本の製作者の養成に取り組み、長期にわたって人的環境を整えていく姿勢は、もっと評価されてしかるべきだと思います。さまざまな状況の市民が利用しやすい体制が整えられてきたと言えらると思います。

次に、②の課題に移ります。利用環境の整備に努力してきた図書館ですけれども、その努力と利用者の増加がリンクしない点が、考察しなければいけない点だと思います。しかし、利用者が微減、微増という評価しづらい状況が続いていて、対策を立てにくいところもあります。

最近、私が耳にした、市内の生涯学習施設の公開講座で、転居されてきた市民の発言が印象に残ってしまっていて、そのままかぎ括弧の中に引いております。「3カ月ほど前、武蔵野市から引っ越してきましたが、調布って何か趣味のことをしたいとか勉強したいって思っても学習施設や文化施設が何もないのね。自慢じゃないけど、武蔵野市は気軽に参加できるプログラムがそれはたくさんあって、そこでお友達もたくさんできるの。でも調布は何もないじゃない。娘世帯と同じマンション内で生活できるから引っ越してきたけど、毎日寂しくて、えらいところに来ちゃったと思って」という話をされた方がいらっしゃいました。お住まいは調布の駅前のマンションだということでした。図書館もたづくりも近所である、そういう位置でありながら、こういう感想を持っていらっしゃ

やるということは、きっかけがないということではないかなというように思います。ですから、最初のきっかけづくりというのを考えていかなければならない。図書館が、そして学習が生活の中に根づく仕掛けが考えられていかなければならないと思いました。

今後のサービスについて、これはちょっと思いつくままに、脈絡なくという感じではあるのですが、図書館は地域の情報拠点です。現在、利用者は静かな図書館で本と自分との出会いを楽しみ、必要な情報を手に入れることができます。このような利用者たちは、情報がストックしてあることに安心し、あらかじめ明確な目的を持って来館しています。このような落ちついた読書や調査研究を保障する環境は今後も維持されなければならないと思います。しかし、これまで利用してこなかった市民を図書館へ呼び込むためには、調布の図書館を知ってもらう必要があります。

まず中央図書館についてですが、今、新しい駅前広場が整備されています。これをきっかけに、駅前広場に目立つ誘導標識を設置してもらえるように働きかけができないだろうかと思います。たづくり角のスペースも一応、誘導標識はございますけれども、漢字で小さく、見ようと思わなければ見えない、そういう感じです。ですから、例えば大きな本のオブジェがあつたりすると、ここが図書館のある館なのだということがわかりやすいですから、読んでではなくて、見てわかるような誘導標識が欲しい。それも多言語であればなおいいかなと思いました。たづくりで、それは(1)、(2)含めてのことです。

次に、中央図書館と分館ともに、こうであつたらいいなと思うのですが、今日、頂いた松澤委員のレジュメにもありましたが、やはり図書館で学習するスペースというものが欲しいと思います。今、学習室という名前で別の階にあって、学習室を利用する人たちは、図書館を利用して学ぶ人の姿が見られなくなってしまっています。学習室は持ち込みの資料で学習するc e l lの状態となっています。でも、図書館が人と人をつなぐということを考えると、ソファでゆっくり本や雑誌を楽しむスペース、それとともに、c e l lではなくて、他人の学びを見られるオープンな空間——今、もちろん蔵書の脇のところに、窓に向かってのスペースもありますけれども、下の写真のように、お互いに広いテーブルを囲んで学習ができる、そのようなスペースがあればなと思い

ました。

これは武蔵野プレイスを見学に行ったときにも感じたことですが、中高生、若い子たちがたくさん来館していること、そして知り合いではない人同士が同じテーブルで学習をしたり、読書をしたりしている、そういう姿がとても印象に残りました。あとは、読んでいただけたらわかると思います。

次のページに参ります。次のページの上にあるのは、私、去年、デンマークのヘルシンガーというところに行ってきた、図書館を偶然見学いたしました。図書館の入り口のところに、ヨーロッパでいい図書館という賞を取ったのだというような垂れ幕が掛けてありまして、見学できるならと思って行ったら、見学できますよということで、見せていただきました。

ここは、シップビルディングと言っていましたけれども、海辺に建っていて、そういう古い建物を改修して、図書館にした建物でした。ですから、外壁などは古いレンガが残っていて、それを補強する形で建てられていました。でも、中は全面的に改装されていまして、こういうガラス張りのグループ学習室などが用意されていまして。大きなテーブルを囲むということもあれなのですけれども、グループで学習する人たちを見ることができるといって、このガラス張りの学習室は、実現できるかどうかはちょっと別にして、いいなと思いました。

しかし、こういう学習施設を併設するためには、音と図書館との問題を解決しなければならないと思います。利用者の利用マナーを向上させる取組も併せて必要だと——これは学習室があるなしにかかわらず、常に利用マナーの向上というのは考えなければならない問題だと思います。

ちょっと飛ばします。最後、「図書館は主張していい」というところを一つ項目立てしてはいますが、調布の図書館はとても評価されている図書館であるにもかかわらず、とても控え目だなという印象を私は受けております。市民が利用しやすい環境を長期間にわたり整える努力をしながら、そのサービスを利用している人以外が知る機会というのは少ないです。ですから、巨大な貸本屋程度の認識しか持てない利用者もいると思います。図書館の機能の深さをアピールすることというのは、ただただ、こんなことをやっていますよというアピールだけではなくて、例えば高齢になってしまった、何か障害を負ってしまったという、その利用者自身の状況が変化したとしても、図書館を利用す

れば、情報にアクセスできるのだ、そういう図書館に対する信頼とか、何かをしたいという期待を醸成することになるのではないかと思います。

ですから、常に目に見える形で主張をしてはどうだろうかということを書かせていただきました。「いつでも、どこでも、だれでも」という、このテーマを、もう実際掲示してくださっている部分もありますけれども、図書館内に複数掲示してくださればいいなと思います。

以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。それでは、安本委員の今の発表に対して、御意見でもご質問でも結構です。あるいは今の御意見を踏まえて、何か思いつかれたことであるとか、思い当たることであるとか、あるいはもう少しこういうことも付け足したらいいのではないかと、どんなことでも結構です。とにかく皆さんが思う調布の図書館、こうあってほしいなということをお出しただけだと思います。先ほど、安本委員も結構気を遣っておっしゃっていたのですが、実際に実現できるかどうかということはまた別の問題で、それがいつになるかとかと考えていくと、なかなか厳しいものがあるかもしれませんので、長期的にこういう方向がいいのではないかと、それがいつできるかとか、そのために何をすべきかということは次の段階で考えることだというように、今回、我々は受け止めていきたいと思います。ですので、いわゆる長期的な課題も含めて話ができればと思っております。

それでは、どなたからでも結構です。どんなことでも結構です。いかがでしょうか。単純な御質問からでも大丈夫なのですが。

では進藤委員、お願いします。

○進藤委員　このガラス張りのグループ学習室、とてもいいなと思ったのですが、こういう場所があれば中学生も、みんなで調べ学習をするような課題が小学校高学年から増えてくるのだけれども、場所がないというのをよく聞きます。誰かのうちといっても共稼ぎのおうちが多くなって、なかなか行けないということで、昇降口のところで話したりとか、学校の玄関、校庭の片隅とかで、それもかわいそうだし、ちゃんと書籍がすぐアクセスできる場所であって、

その機会に調べる練習もできるみたいなことであれば、たづくりの中にもみんなの広場という場所はあるのですけれども、あれは登録して、予約して借りるという場所だと思うので、小学生にはちょっと借りにくいと思う。図書館にあれば利用するのではないかなと思うし、しかも外から見えるっていいですね。小学生の間は、ああいうように中学生は勉強するのだと見ているみたいな、そういうのがあるといいなというように私も思いました。

○野末委員長　ありがとうございます。見えるって大事なのですよね。今、進藤委員の発言にあった、このように学んでいくのだということをお互いに見合っていくことって結構大事なのです。今、大学図書館はそういう方向に行っていて、賑やかにしてもいいから、そこでグループなり、一人でもいいのですけれども、学び合う。いわゆるラーニングコモンズというものをどんどん作って行って、そちらが今、主流になってきていますよね。1個上とか2個上の先輩があんなように学んでいるとか、あるいは同級生でも、あんな議論をしておもしろそうだなということに触発されて、どんどん学びを広げていく、深めていくという、そういう意味では学びやみみたいなものが起きていくというのは、これから公共図書館でも、多分、広がってくるのだろうなと思っています。

私ばかりがしゃべってはいけないのですけれども、全国で今、新館といったらいいのでしょうか、新しく図書館を建て直そうとしている自治体がありますが、やはりこういうスペースを設けるという計画が増えていると言われていきます。つまり、少し賑やかにみんなで学び合う場所を作っていこうではないかという方向になっていると思います。

ガラス張りにするとか、調布の図書館にすぐできるかどうかは、もちろん今後の問題なのですけれども、アイデア次第だと思うのです。今、進藤委員がおっしゃった、放課後、帰り際に昇降口ではというところを、もう少し本のあるところにどうぞということに来て、例えば、現状でも曜日とか時間を区切って、この時間帯は少し賑やかな学習風な空間にしますよということも考えられるかもしれないですし、そういったアイデアは多分、幾つか出していくことができると思うので、ぜひ、ここはいいですねということでも構わないので、引き続き御意見を頂ければと思います。

ほかにいかがでしょうか。関連していてもしていなくても大丈夫です。高野委員，どうぞ。

○高野委員 (5)の「図書館は主張していい」というところが私はとても賛同するというか，みんながこのレポートの中でいろいろ触れていることなのですけれども，本当にこの「調布の図書館は控え目だ」というところから2行目まではそのとおりだと思って，時間に縛られない時間というか，そういう中で，みんなでどういう案があるかしらというような話を，無責任でもいいので，話し合える時間があつたらいいなと思います。

○野末委員長 ここで我々がということですよ。

○高野委員 この2時間という枠ではなくて，ほかにそういう機会を設けて，思いの丈を語り合うというような……。ほかのレポートでも皆さんが一杯触れていらっしやるけれどもね。

○野末委員長 それはなかなか貴重な御意見で，リラックスした雰囲気ということも，いいかもしれないですね。

もちろんこういう公式な場面というのも大事なのですけれども，少しインフォーマルにしたり，あるいは人数を絞って，懇談会形式でということはあると思います。もしよろしければ，後で事務局と相談させていただいて，どういう形になるかわかりませんが，せつかく委員の皆さんからそういう御意見が出たのであれば，そういう機会も作っていきたいなと思います。控え目な図書館にかわって，我々がどんどん勝手に応援し始めるということかなと思います。

もしかしたら図書館側の皆さんから，この控え目と見える部分があるということについて，何かコメントはありますか。小池館長，お願いします。

○小池館長 現実の仕事をする中で，別に控え目になろうというよりも，そちらのほうに時間を割くということが，多分，調布だけではなくて，多くのと

ころは厳しいのだと思うのです。そこをどのように考えていくかというところかなとは思っています。感想ですけれども。

○野末委員長　今の館長の御発言は、私、個人的にはとても重要なところだと思っていて、図書館は控え目というのは、我々がそこにサポートに入ることによって、つまり図書館が直接広報とかPRをするばかりではなくて、我々のような、図書館にかかわっている立場の人間が、少しそういった部分を担っていくような、うまい仕組みをもう少し作っていくことができればいいのかなと思っています。

調布の図書館は、全国的にもいい図書館なのは間違いないので、ただ、それがこのように思われているというのは、我々もちょっと悔しいところがありますので、先ほどの高野委員のお話ではありませんが、このように我々としてできるのではないかという、そういう自由な意見交換みたいなものを、図書館の皆さんを交えながらやっていくといいのかなと思います。図書館の皆さんがお忙しいのは重々承知しております。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どんなことでも結構です。1人目はなかなか意見が出にくくて、だんだん後で温まってくると増えていくのですが、いかがですか。――どなたの発言に戻っていただいても結構ですので、一旦先に進ませていただいて、また後で全体を振り返る形でまとめていきたいと思います。安本委員、ありがとうございました。

それでは松澤委員から、この差し替えた資料で、よろしく願いいたします。

○松澤委員　今、安本さんのすばらしい資料と説明で、やりにくいなと思いつつ、時間も短か目にやらせていただきたいと思います。

まず初めに、テーマを3つに分けてみました。「勉強の場として」ということで、これは最初のときにちょっとお話をしたのですけれども、私は調布駅周辺でずっと生まれ育ってきまして、小さいころの図書館のイメージというのは、本を借りるということと、そこで調べものをして宿題をやったり、試験前に行って勉強したりというイメージがすごく強かったものですから、そういった中で、今、中央図書館にはそういう機能が余りなくて、たづくりという施設の中

で、学習室というのがあるのでそちらでやっているのですが、安本委員も言っていましたけれども、学習室というのは自分で持ち込んだものを勉強するだけであって、そこで何か調べようと思ったらできないのです。パソコンの持ち込みもできるのですけれども、基本的に持って行って、調べものがあるかどうか分からないのという部分で用意はしていきませんから、そうすると、やっぱり図書館というのは、勉強と調べものができるという場所としてはすごくいいのではないかということと、あと、たづくりの学習室は行くといっぱいなのです。社会人学習室というのは20席ぐらいしかなくて、一般学習室は結構あるのですけれども、試験前などは、うちの子どもも行くと、いっばいで入れないので、帰ってくるのです。そういうことを考えると、やっぱり勉強する場というのが足りないのかなと思いますし、まだまだ図書館の中でそういう場があっても、来ていただけるのかなとは思っています。

それから次に、最初に利用状況報告書という、何回か出ているのですけれども、数が減ったということなのですが、数字だけで減った、増えたということではいい悪いは判断できませんよね。結局、図書館というのはどういうものがあるか、何で来るのかということで判断すべきであって、商業施設ではないですよ。そうなったら、単に減ったからどうするのだというだけではなくて、ちゃんと目的を持って、いろいろな人たちがいっばい来てくれれば、それだけで図書館の機能は果たしているのではないかと思うところもあるのです。その辺は、数字だけで判断しがちなところというのはいいのか悪いのか。数字で判断していい部分と悪い部分があると思うのですけれども、その辺はどのように、図書館としてお考えになっているのかなというのを思うところがありまして、その辺は後でお聞きできればと思います。

それと、基本的に中央図書館に限った話ばかりになってしまうのですけれども、次が「独立した施設への移動」ということで、これは無理かもしれないのですが、図書館がたづくりという施設に入っているために、かなり制約を受ける部分があると思うのです。施設として決まっていることを守らなければいけない。例えば開館時間を変えたり、遅くしたりというのは当然できないと思いますし、休みに関しても自由にはできない。全体として決まっている休みの中でやるしかないという部分があったりすると同時に、あとPRという部分で

も、よく市役所などに垂れ幕を下げたりしますよね。この建物は、そういうのをやっていいのかどうかというのが多分、いろいろあると思うのです。ここまではやっていいけれども、これ以上はPRしてはだめとかという部分があると思うので、そうなる、やっぱり違う施設に移ったほうが、いろいろな意味で図書館としての機能がもっと、これ以上出せるのではないかというのを感じています。土地の問題、資金の問題、いろいろなことがあって、無理ではあると思うのですけれども、そういうことができれば、もっと自由に、図書館としての機能が果たせるのではないかと思います。

最後に「映画のまち調布 某シネマとの連携」ということで、来年の秋に映画館ができるのです。某系列のシネマなのですからけれども、線路が多摩川の方へと分かれる三角地帯というところに開業して、たしか年間110万人ぐらいの来場者数を見込んでいるということなのです。それと、踏切を挟んだ反対側には、この間発表されましたけれども、大型電気店が入るといふビルができて、向こう側にもう一個、いろいろなお店が入る施設ができるということで、かなりの数の人が、今後、調布に来るのではないかというのがもう見込まれていて、地域でもいろいろなことを考えているのです。

それで、映画館のところには大きな駐車場ができて、その車の導線をどう考えているかといったら、品川道から市役所前を入れてきて、たづくりとアフラックの間の細い道を左に曲がって、旧線路のところとぶつかる道を今度、右にずっと行くと、映画館のビルの駐車場に入るといふ導線を考えているらしくて、そうなる、この周りを、来た人がずっと見ていくわけです。そうしたら、もっとここでPRしないと……。通ったときに、ここに図書館があるとわかったら、案外ちょっと寄ってみようかとなるかもしれないのではないのでしょうか。ただ、1階に入って、またエレベーターに乗っていくかどうか、さっきも書いてありましたけれども、そこまではちょっとどうかかわからないですが、そういうことを考えると、もう少しいろいろなPRの仕方というのができるのではないかということを考えています。周りの商店街、うちの近くの商店街なのですからけれども、結構それを見込んで、どう導線をつなげていくかという部分があるのです。だから、そういうことを利用するのもいいのかなということと、それに合わせて映画関連の書籍とか、そういうのも充実したりすれば、もっと人が

来ていただけるのかなということのをいろいろ考えてみたのです。ただ、この3番目のPRに関しては、もうすぐの話ですので、先ほど言った、この建物の施設で、どこまで図書館が勝手にやっていいのかというのが問題にはなると思うのですけれども、ましてここは商業施設ビルではないですからね。ということもちょっと考えたらいいのかなということのを思いました。

以上です。

○野末委員長 ありがとうございます。もうこれは来年の秋でほぼ確定？

○松澤委員 秋は確定ですね。来年の9月か10月ぐらいですかね。

○野末委員長 そうすると、来年の今ごろには、日曜日だと映画待ちの車が並んでいる。

○松澤委員 この前は渋滞になるのではないかと思うのです。ただ、向こうの、甲州街道側からは余り持ってこない方向でいるみたいです。すでに商業施設とか、いっぱいあるから。

○野末委員長 南から行くという感じにするのですね。

○進藤委員 きっと、たづくりの駐車場に止める人もいますよね、有料だけれども。

○野末委員長 出るでしょうね。

なるほど、ありがとうございます。では、松澤委員からの御意見について、皆さんから御質問でも御意見でも、あるいは関連した情報提供でも結構です。いかがでしょうか。

私、ちょっと最初に伺っていいですか。松澤委員の、最初にある、調べものをして学ぶ場所、学習する場所というイメージが子どものころあったと。松澤委員、この近所で育てられるのでそうだと思うのですが、やっぱり回りの

同級生とかもそんなイメージなのですか。

○松澤委員　そうですね。今ほどパソコンとか、そういうのもないですから、図書館に行って百科事典を調べて、それをノートに写してとかというのはずっとやっていたからね。みんなやっていたと思うのです。

○野末委員長　やっぱりそういうイメージなのですね。ありがとうございます。

さて、いかがでしょうか。そうしたら、松澤委員からちらっとあったので、さっきの数字の話だけ、せっかくの御質問でしたので、小池館長からお願いします。

○小池館長　図書館の活動をどのように見るかという話は、貸出しの量というものは一つあるだろうというのは昔からあって、貸出しが多いからいいかどうかというのは、おっしゃったように、評価の問題としてはあると思うのですけれども、図書館に来て、何らかの活動をした結果を測定するのは、実はなかなか難しい。それで、とにかく借り出された量というものを一つの、自分の図書館の時間軸の中での評価とか、あるいはほかの図書館との比較ということに使えるだろうということで、貸出しの量という意味での貸出数というのはどこでも、大概使うものだと思っています。それもあって、調布の図書館もずっと、50年来、数を数えているというのが現実です。

おっしゃっているように、増えただの、減っただのということだけで全てが語れるかという、そんなことはなくて、例えば図書館で資料を利用するということがどれぐらい行われるかというのは、1つは貸出しなのだけでも、図書館の中でどれだけの人が本を読んでいるとか、どれだけ時間読んでいるとか、そういうことも一つの指標というか、統計的なものとしてあるだろうとは言われていて、ただ、それは数えられないのです。私、何時間読みましたと言って、帰るときに申告していってもらおうというのが一つのやり方でしょうけれども、そうしたら、ちょっと重荷になってしまう。次に考えるのは、誰かがじっと見ているという話になる。それも現実にはなかなか難しいというところ

ろの中で、多分、それは重要な話だろうけれども、数えられないから、誰もやってこなかったというのがあるのだと思います。

もう1つあるのは、図書館を使ったことによって、何かその人が変わったとか、地域が変わったとか、社会が変わったということが、多分、一番わかりやすい質的な変化があったと言えることなのだけれども、それもやはり測りにくい話であって、話としては出てくるのだけれども、なかなか説明し難い。例えば、そのことを証明というか、使うとすれば、図書館を使ってこんなことができましたとか、何かそういう小さい話でもいいけれども、自分が変わったな、あるいは地域が変わったなと感じた人が、どんどん発信していく。それを採取しておいて、事例集ではないけれども、発表していくみたいな、そうすると、図書館があることによって、何か活動があったなということがわかるということで、これは、今度は利用者自身が発信するということに期待するというか、それを図書館が呼びかけて、こんな例がいいかわかりませんが、図書館を使って、試験の点数が上がりましたみたいな、そんなことを言ってくれる人たちが出てくるとか、あるいは目指していた資格が2回目で通りましたとか、1回目で通りましたとか、そういうことを言ってくれる人たちを採取して歩くということは一つのやり方かなと。そうすると、それは図書館がやるとすれば、多分アンケートみたいな形というのはあるかなという気はします。

もしかすると、それが一番訴える力を持ってくる。だから、貸出しの量が増えましたねというのは、それはそれでいいのだけれども、それを競い合うのではなくて、自分が図書館の資料を使って、あるいは図書館で出会った人とのつながりの中で何かができるようになりましたみたいなことを発表していくような、そのほうが、図書館があっただけよかったねと言ってもらえることかなというようには思っていますが、そこはなかなか調べにくいところがあるのが現実かなと思っています。

○野末委員長 ありがとうございます。松澤委員の御指摘のとおりで、やはり数字ではないものというのをどう表現するかというのは大事なことだと思います。今、小池館長が事例集とおっしゃいましたね。

○小池館長　　例えばです。

○野末委員長　　そういうことはすごく大事だと思います。図書館が働きかけるケースもあるでしょうし、我々が、集める立場だったり、伝える立場だったりということにかかわることもできるだろうと思いますので、そういうケースを積み重ねるとするのは非常に重要なと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。松田委員，どうぞ。

○松田委員　　映画関連の書籍や展示ということで思い出したのですが、国領小の学校図書館の話なのですけれども、『君の名は。』がはやって、6年女子はもうそれに持ち切りで、すぐ何人かが原作を買ってくれと言ってきました。やっぱり『精霊の守り人』をテレビでやると、その本が動くし、『ルドルフと IPPAIATTENA』も映画が出たら、やっぱり動くし、はやりものというか、今度はハリー・ポッターが出るみたいなことで、全部それを追いかけるというわけではないのですけれども、やっぱり子どもの関心というのに沿っていかなければいけないのだなというのを感じているところです。そうすると、「買ってくれるの?」と言って、明らかにすごく感触がいいので、やっぱり話題づくりというか、そういうことでは、その学校の文化もあると思うのですが、幸いというか、6年の男子も「先生、おもしろい本ない?」と来てくれるのです。なので、「カーシア国，どう? これ」とか言って誘えるみたいな。ただ、外国の物語に持っていくというのがなかなか難しく、そこまで読む力がないと外国のお話には行ってくれないのですけれども、それはちょっと余計な話なのですが、そんなことも思い出しました。

○野末委員長　　ありがとうございます。確かに映画館がすぐ近くにあったら、では原作をとか、関連するDVDをとかいうことは想像がつかますよね。なるほど、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。来年の某シネマも本当に直近の課題なので、少し考えていくということかなと思います。調布の図書館の、ほぼ唯一の弱点はビルの4階、5階にあるということだと思うので、長期的には、松澤委員が書いて

てくださったように独立したというところをどこかで目指していただきたいなと本当に心から思うわけですが、そうはいつでも、現状、できることもあろうかと思えますので。

○安本委員　よろしいですか。それこそ、さっき館長が言われた事例集とか、ビデオとか作って流せないのでしょうか。例えば、何か資格試験を取るときに、「ここの図書館に通って勉強したんですね」とかいうビデオを撮るとか、「映画を見て、同じ作者の作品を読みたいなと思って、ここの図書館に駆け込んだら全部そろっていた」とかいうビデオを撮って、下のロビーで流すとか。音はなかなか無理だと思うので、字幕つきで……。

○進藤委員　ケーブルテレビでも放映していただいて、同じものを流すとかね。

○野末委員長　許可が出れば、Y o u T u b e あたりに出すと、割といい効果はあるかもしれないですね。

○安本委員　4, 5人, 図書館の利用者の生の声を、顔を出してもいいよというような人の、このように使っていますというのを画像で撮って……。

○野末委員長　それこそ図書館のホームページとかにそういうのが少しあると、とてもいい効果があるような気がしますよね。館長、どうぞ。

○小池館長　そういうコンテンツと呼ばせていただきますけれども、例えば図書館PRや、あるいは図書館がやっていることを調布FMで語るだとかというのは実はたくさんあるのです。調布FMさんにスポンサーという形で図書館は月1本とか2本とか出すのですけれども、そのときに図書館の事業などを説明している。それから、調布市民放送局が取材という形でいらっしゃって、図書館の事業を撮って、それを1分間とか3分間にまとめるというのをやっていて、それも個別に、実はもうこの5～6年、たまってきているのです。ただ、

それが、それぞれのところからは発信されるけれども、この図書館からは発信されていない。それを一堂に見るという仕組みもない。だから、例えば、既にあるものを組み合わせるということは、さすがに10年前のものを見てもしようがないかもしれないけれども、少しそういうものが発信されたときには、図書館からもチャンネルされているみたいなことが、現実には今、できるかなとは思ってはいます。それは図書館の努力が足りないということと、あと、やはりそれぞれのコンテンツを作っている側のライセンスというか、そういう感覚もあるので、こちらだけの思いではできないわけですがけれども、そういうのが実際にはあります。

それと、商工系でやっていらっしゃいます、商店会CM作りみたいな、ああいう、今、お話を聞いていて思ったのですけれども、調布市民放送局もいいですし、そういう形の中で、図書館一本取り組んでくれる学生さんがあればおもしろいかもしれないしというようには、お話を伺っていて思いました。

○野末委員長　もう既にいろいろなチャンネルというか、ソースはあるのですよね。ただここに、それを集約してつなげる仕組みと、あとは利用者が図書館を語るみたいなのところに力を入れていくというのがいい方向なのかなと思います。とてもいい方向ではないかと思います。ありがとうございました。

それでは、また後で戻ることができるということで、松澤委員、ありがとうございました。まさに地元ならではのコメントだったと思います。

それでは、私のところは飛ばせていただいて、深沢委員からお願いいたします。

○深沢委員　私個人としましては、図書館の現状にとっても満足しております、こうしてほしいという希望というのはちょっと思い浮かばないのですけれども、やはり今、伺っていますと、子どもたちの勉強するスペースが確かになかったとか、そういうことは感じます。

私は本当にお金のかかるようなことばかり書いてしまいましたけれども、これは全部調べていないのですが、もう高齢化が進みますので、いろいろな障害がある方とかが気軽に来てもらえるような、分館にエレベーターとか、そんな

ことは大事かなと思って書きました。

それから、やはり独立館としての図書館が欲しいと思うのですけれども、1階に図書館があるというのはとても必要なことで、特に目の不自由な方は、入ってすぐに何かサポートしていただきたくても、ここではそういうことができて、4階まで来るのが結構大変だと思うのです。エレベーターホールも割と混雑することがありますし、1階に図書館があれば、入り口を入っていらしたら、すぐにサポートできる。ボランティアさんでも職員の方でも、声をかけて、要望に応じられる体制がすぐ整うわけですね。だから、どうしても1階に図書館が欲しいと思います。

それから、スペースが狭いですよね。考えたのですけれども、図書館をPRして、人がいっぱい来たときに、今のあの狭さで、何割の人が押し寄せてくるかわからないですが、そうしますと混雑しますし、雑音も当然入ってきますし、やっぱりPRもやり方を考えると、あるのではないかと思うのです。

例えば50周年のPRなどでしたら、駅の西側の、調布駅に入るところから改札の間がずっと空いていますよね。ちょっと目立つところにじろちゃんのかわいいポスターがあったら、みんな目を引くと思うのです。そこは京王電鉄との交渉なのでしょうけれども、あそこはきっと高いのですよね。だからできないのだろうなと思って、やっぱりPRするにはスペースが狭いかなというのがあって、できればたづくりの構造をちょっと変えていただいて、図書館を広くしていただいたらいいなと。とにかく教養の城として、広くしていただきたいなと思います。

余りまとまりはないのですけれども、お金のかかることばかり考えてしまいました。済みません。

○野末委員長　ありがとうございます。多分、お金のかかること、時間のかかることだと思うのですけれども、我々もそうですし、市民の皆さんもそうですし、もちろん図書館に働いている皆さんも全員そうだと思うのですが、1階とか独立とか、よりよいものがあるだろうなというのは皆さん、思っていることだと思いますので、どこかのタイミングで、長期的にはこういう方向がいいのではないかということを出し出すことができればなと。我々の協議会として

の意見として出していくのはとても重要だと思います。

あと、最初におっしゃっていたのですけれども、基本的に調布の図書館は我々、かなりの部分、満足しているので、どこがいいのだということを書いていくことも逆に大事なのだらうと思います。どうしても、もっとこうしてほしいということに行くのですが、ここはとてもいいのだということも書いていくことは必要だらうと思っています。ある意味、いい図書館をさらに良くしようというぜいたくな議論を我々、しているところがあると思います。

あとは、できることを現実的に考えていくということかなと思います。前にも伺ったかもしれないのですけれども、1階に出店ではないですが、出張カウンターみたいなを出すのは難しいのですか。図書館職員の方がいらっしゃるか、例えば我々のようなのがボランティアで入るかというのは別として。館長、お願いします。

○小池館長 たづくりの例でということですよ。たづくりの管理としては、多くの人往来するところなので、何かが出張るといったら変ですけれども、ということはかなり慎重にしなければいけない。この前の50周年の展示をやるときに、あそこのステージを使って、上で展示をやっていますよということを目立つようにして、館長が身を張ってとまで言われたのですけれども、PRすることを約2日間やりました。そういうところを使うことが1つかなということと、御覧になってわかるように、今、水木さんコーナーということで、市としてのメモリアルブースを今は作ってあります。あのような形で、皆さん、利用したいということはどうしても出てくるので、図書館がありますよということの部分の割いてもらうのは、実はここはいろいろな施設が入っているので、現実には難しいかなと思います。

ただ、先日、3月20日に行われたアートフェスティバルということで、たづくり開館20年という記念行事のときにもそうですけれども、あそこのステージを使うことで、いわゆるイベントを行うときに図書館の存在をPRすることは可能だし、実績としてはやってきているので、今後もそういうことはやっていければなと思います。

○野末委員長　ありがとうございます。常設で何かというのはちょっと難しいけれども、そういうイベント的なものとかはいけるということですね。ありがとうございます。

それでは、深沢委員の御意見について、御質問、あるいは御感想等よろしくお願いたします。いかがでしょうか。

せつかなので、先ほど分館の話がちょっとあったので、分館の中で、アクセシビリティですかね。今はアクセシビリティが余りよくないところもあるかもしれませんが、これは基本的には、長期的には改善していくということですよ。多分、図書館だけではなくて、市全体として。どうなのですか。福島副館長。

○福島副館長　考えたいということと、あと図書館でも外階段のところを何とかエレベーターをつける方法はないかどうか、検討したのですが、エレベーターはなかなか難しいけれども、階段昇降機をつけたいというのは希望は出しているのですが、難しいところはあります。

○野末委員長　それは予算的にですか。

○福島副館長　予算的にと、あと建物の構造上の問題や、下が保育園であったりする関係もあって、エレベーターは難しい。階段昇降機だったら、つけることは可能だろうということを出してはいるのですが、予算的に難しい。

○野末委員長　結構かかるのですよね。

○福島副館長　駅にあたりしますけどね。

○野末委員長　わかりました。確かに2階とかありますからね。

○福島副館長　なので今はインターホンとかつけて、呼んでくださいと言って、そうしたら人が出て、人手で階段を一緒に上がってもらいますという形に

しています。

○野末委員長 わかりました。市としても一応認識はしているということなのでですね。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。――また深沢委員の意見についても後ほど戻ってくるようにいたしますので、一旦先に進ませていただきたいと思います。深沢委員、ありがとうございました。

では、陸委員、よろしくお願いします。

○陸委員 私は、これまで皆さんがおっしゃっていたことと私が書いたことと、随分重複する点があるなと思っています。この図書館は水準が高いし、本当にいい図書館だなと思っているのですけれども、やっぱり時代がどんどん変化していく、それについていかななくてはならないというのか、時代のニーズに沿ったということが求められているのではないかと思うのです。

それで、最近の三多摩の図書館大会などでお話を伺っていると、まちづくりということに結構大きな視点が置かれるようになってきたなという気がしているのです。そういう中で、地域に住んでいる人のつながりとか交流とかの場が必要とされているのかなというところで、きっかけをつくる図書館であったらいいのかなと。そうすると、図書館で知ったことをきっかけとして活動が始まったり、活動する中で、図書館で資料を調べてとかということができていくのかなと。

それから、高齢化や格差が広がりつつあるので、そういう情報を受け取りにくい人たちに対応していくことも大事なのではないかと思いました。

こういう問題を解決していくには、皆さんも何度もおっしゃっているのですけれども、レファレンスの強化ということも1つだと思います。だから、高齢者とか障害がある方が気軽に相談できる、そしてインターネットが苦手だったら、それをサポートしてくださるというような図書館であるといいのかなと。

それから、進化する医療の情報が、特に高齢化となると必要になってくるのですけれども、そういうことを調べる場所があるということがすごく力強い味方になってくるのかなと思いました。

そういう中で、先ほどのお話でも、やっぱり図書館は1つで1階にあったほうが良いということもわかるのですけれども、今ある、この施設を何とかうまく利用してやっていけないかと思うのです。武蔵野プレイスなどは、図書館はもちろん下のほうにあるのだけれども、上のほうでは市民の活動するスペースなどがたくさん用意されているので、そういう見方をしていくと、このたづくりも捨てたものではないのではないかと思います。だから、学習情報コーナーが情報とか、そういうものを持って、教育委員会と市長部局の違いというのはあるのかもしれないのだけれども、うまくその垣根を飛び越えてやっていく可能性もあるのかなど。そうすると、11階のみんなの広場を使っている人たちとも何かつながっていかないかと思ったのです。活動が見えるということが大事で、オープンなスペースはないのだけれども、上までいくのは大変なのですが、関連ができないかと思いました。

それから、何といても、やっぱり若い人たちが図書館を利用していくということが、後々、高齢になったときにも図書館に来るということがある。全然なじみがなくて、いきなり時間が空いたから行こうかとはなかなか思えないものだから、図書館は小さい子どものための読み聞かせとか、そういうところに物すごく力を入れていらっしゃる、それはとても大事なことだなというように思います。だから、中学生とか高校生も結構たづくりには来ているので、何とかオープンなスペースで市民の活動とか、そういうものが見えていくといいのではないかと考えています。

それで、今、高齢者の問題にかかわっているのですけれども、2025年問題といって、本当に世界でもトップの高齢化社会を迎える、それに向けて、今、地域包括ケアということが提唱されて、国会でもそういう問題が審議されている。介護保険で要介護1、2の人までは各市町村が面倒見なさいとか、あと、ボランティアの力をかりてやってくださいというように出てきているのですけれども、そのためには支え合うコミュニティということが物すごく大事で、これまで以上にボランティアや地域活動が期待されるということになっていくと思うのです。そういう中で、やっぱりまちづくりという観点が図書館にも入ってきているということではないかと思いました。

それで、高齢者にとってはエレベーターで上がる中央図書館よりも、近くに

ある図書館、特に1階の図書館は利用しやすいと思われるのですが、地域館もそれぞれ特色があって、保育園が併設の図書館は子ども向けに力を入れるとか、富士見図書館は水木しげる氏のお住まいが近かったというところでその作品に力を入れるとか、それぞれの特色を持たせたらどうかなと思いました。以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。それぞれの委員が、それぞれのお立場、観点で御意見をくださっているので、非常に貴重なものになってきていると思います。

それでは、陸委員の御意見について、皆さんからの御意見、御質問、あるいは御感想、何でも結構ですので、いかがでしょうか。

今、お話があった、長期的な話とは別に、今現状、あるものの良さみたいなもの、この複合施設の良さというのですか、このフロアにある良さみたいなものも生かしていく方がいいのではないかというのは非常に貴重な御意見だなというように、確かに思います。11階などもなかなかいいスペースですよ。うまく連動させていくことができればと思いますね。

後でお話があるのだと思いますけれども、「としょかんめぐりシールブック」が皆さんのお手元にあって、一番最後に各分館の特徴みたいなものを——もちろん交通手段とか体の具合にもよるのですが、調布はたまたまあちこちに、行ける距離に分館が幾つかあるところにお住まいの方が多いと思うので、これは特徴がそれぞれ書いてあって、例えば神代分館は「ざっしのコーナー、おすすめ」とか書いてあるのです。これにもうちょっと特徴を持たせて、みんながぐるぐる、休みの日に回ったり、歩いたりするようになったりするといいのかなと、私、一番最後のコメントを見て思ったのです。

ほかにいかがでしょうか。御意見、御感想、どんなことでも結構です。どうぞ。

○高野委員　まちゼミというのが図書館とかかわっているのです、このまちゼミを利用するというか、ジョイントというようなことを考えてもいいのかなとか思いました。地域とのつながりというか……

○野末委員長 前回、配付していただいたものですね。

○高野委員 この前の協議会で。

○野末委員長 ちなみに図書館として、今、そういう話はあるのですか。まちゼミとの関係というのはどんな感じなのですか。小池館長、お願いします。

○小池館長 まちゼミ、すみません、ちょっと記憶が定かでなくなって、前回、どのような説明をしたのかですけれども、前回で5回目ですか、今、6回目が企画されていて、図書館がどうかかわっているかという中では、まちゼミを開校される商店のテーマに応じたもののブックリストというか、そういうものを作っています。一緒に配っています「あなたのまちゼミを図書館がサポートします」という裏に、今、私の手元にはキャンドルシェードのブックリストということで、キャンドルシェードを作る、その関係のものを紹介するというをやっている、その資料は中央図書館にはコーナーを作って、開催する前の予告から、展示しているというのが今の現状です。

ちょっとこの取組自体おもしろいということで、この前、まちゼミの事務局をやっている谷中さんと私とで千葉県の職員研修に出かけて、どういう取組であるか、それと図書館がなぜかかわって、どのような効果があるかみたいなお話をしてきたところではあります。

○野末委員長 ありがとうございます。さて、いかがでしょうか。ほかによろしいですか。一旦、先に進ませていただきます。少しずつ、御意見、コメントが少な目になっているのは、多分、何となく大きな方向性が見えてきたということなのかなというように受け止めています。では、また後ほど戻ることありという前提で進みたいと思います。陸委員、ありがとうございました。

では、大作委員、お願いします。

○大作副委員長 私の視点としては、陸委員に似ているところがありますの

で、3つテーマを挙げているのですが、真ん中の「コミュニティをつなぐ」というところからお話ししたいと思います。

私も、住民の中にいろいろな自主的なサークルの場だとか、あるいは今日のお話にも出たと思うのですが、中高生の活動の場というのの必要性があるのだろうなと思っています。そういった住民の生活の中に図書館がお邪魔していくというようにプリントでは表現しているのですが、そういった感覚で活動の場を提供する、あるいは図書館の資料とつなげていくということが、もっとできたらいいのではないかと考えています。でも、既に調布では、例えばFCとのコラボもそうですし、今、お話しいただいたまちゼミとのコラボというの、イメージとしてはすごく近くて、人と人、あるいはコミュニティをつないでいくという、そういった機能をぜひこれからも積極的に続けていっていただけたらと思っています。

そのときに、中央図書館も分館もそうだと思うのですが、児童室というのが、中高生というよりはもう少し下の乳幼児から小学生ぐらいまでの、机、椅子などもそうなのですけれども、そういった対象なのかなというときに、これは長期的な話になるかと思うのですが、中高生が活動しやすい場作りというのが、図書館の中にあるといいなとは思っています。

このことと関連して、テーマ1の「地域資料」というところも、調布の図書館の機能としてどう考えていくのか、皆さんで考えられたらなと思っていますのですけれども、図書館は、既に出版されて、流通されている資料を選んで購入するというのが一番基本的な機能だと思いますし、それが調布は他市と比べて違うとは思っています。私自身は今、調布市の住民ではないのですけれども、市外に出て、初めて調布の資料はこんなに持っているのだということがわかるのです。ちょっと調べようと思うと、もうない。少し古い本だとないということが、調布だとあるということに気づくのです。ですので、それはすごく図書館の基本的な機能なのだな、調布はそれを保証しているのだなということを感じているところです。

それにプラスして、そういった住民、市民の皆さんの自主的な活動の形跡というか、記録といいますか、そういった出版流通に乗らないような地域資料のような扱いというのは、そういった記録が図書館でできたらいいのではな

かと思っています。ちょっとイメージしにくいかもしれませんが、大学ですと、大学図書館が、その大学で生み出された研究成果をインターネットに公開するというようなことを主導でやっているということがあります。機関リポジトリという形で実現しています。そのような形にイメージは近いのですけれども、市民の活動を記録、保存できたらいいのではないかということが、最初の「地域資料」というテーマで挙げさせていただいたところです。

それで、3番目の「気軽に相談」というテーマで書きましたが、これは本当に人と資料をつなぐというところで、今日の皆さんのお話の中でも出てきたレファレンスのところです。何か難しい調査、調べたいことでなくてはいけないのだということでは全然ないかと思うのです。ですので、もっと気楽に、気軽に相談できるような信頼関係を、分館だとすごく身近なのかなと思うのですが、中央図書館ですと、どうしてもレファレンスにいる人が時間帯によって違うとか、曜日によって違うということもあると思うので、より身近に感じてもらえるような取組ができたらいいいのかなと思っています。

これも、既にパスファインダーの作成ということで、これまでも協議会で報告していただいたかと思うのですが、それも1つだと思いますし、レファレンスの結果、深沢委員のところに、御主人がレファレンスのコーナーでアドバイスを受けてなどとありましたけれども、そういった結果を、今日のお話にあった、テル・ユア・ストーリーなどと言ったりしますが、あなたの図書館での活動というか、それをお話ししてみたいな形で報告というか、それをアピールしていけたら、つなげていけたら、もっといいのではないかと思っています。

以上です。

○野末委員長　ありがとうございます。やはり中高生の問題とか重要ですし、あと、地域資料も確かにそうですね。調布はいいのですよね。地元のものを調べようと思ったらあるのです。

今、大作委員のコメントを伺っていて思ったのですが、調布の図書館、とてもいいのですけれども、普段、我々は当たり前に使っているので、よくわからないところがある。これを機会に、ここはとてもいいのだということも、我々のまとめには書いていって、それがやはりPRにもつながっていくだろうと思

いますので、ぜひいいところはいいのだということは改めてアピールしていきたいと思います。

それでは、大作委員のコメント、意見について、御意見、御感想、御質問等ございますでしょうか。最後の、「何かおもしろい新刊入った？」というのを尋ねられる雰囲気っていいですよ。なかなか図書館の方もお忙しいので、こういうことを聞いてはいけないのかなと思っている利用者の方、多いと思うのです。でも、こういうことも聞いていいのだということが、だんだん伝わっていくような工夫があるといいのかなと思います。ここから深いレファレンスにつながったりということもきっとあるでしょうし。

ほかにいかがでしょうか。ちなみに、先ほどの市民へのインタビューのお話がありましたけれども、たしか秋田県立でしたら、90年代の最後に地域のお祭りを撮ったり、語り部さんのものを録音したりして、それを図書館が資料化したという事例が多分、走りだと思うのですが、そういったことも調布ならではのものであったらいいと思いますし、これも多分、図書館の皆さんに全てお任せというよりも、我々市民が協力をしていくということで実現できる場所があるのかなと思います。

先ほど高野委員がおっしゃってくださったのですけれども、地域資料についてどうだろうとか、もう少しテーマを区切って、ざくばらんに意見交換する場所があるといいのかなと、ちょっと今、感想を持ちました。

それでは、せっかく最後に回っていただいた柘委員のコメントがありますので、また戻りますので、それから次回も実は全体を俯瞰する時間帯を設けますので、大作委員、すみません、一旦先に進ませていただいて、また振り返るということにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、柘委員、お待たせいたしました。よろしく申し上げます。

○柘委員 持ち時間3分で……

○野末委員長 いえ、多分、図書館の皆さんが5分ぐらいはくださるはずなので、大丈夫です。

○**柘委員**　まずは安本委員のレポートの発表を聞かせていただいて、何て私はいいかげんなのだろうと、この3分で書いたメモと、レポートで書かれてすごいなと、非常に反省しております。

でも、皆さんの発表を聞かせていただいて、書いてあることは違うのだけれども、同じだなということを思いました。安本さんが、調布の図書館は控え目、引っ越してきた方がアクセスができないとおっしゃっていたというところは私も同感で、市民なものですから、調布の広報誌をよく読むのですが、やっぱりそこではなかなか目に入らないというところがあって、控え目だなというのは同感しております。

そして、松澤委員が言った映画のまち調布、それから深沢委員も調布のまちに触れられていましたけれども、特色を出すとしたら、そうなのかなというところはすごく思うところです。

それで、水木しげるさんのコーナーもこうやってあるのですけれども、やっぱりここに行ったら必ず揃う、映画のまち調布に行ったら世界一を目指すというところが大事なのかなと。あそこに行けばあると言えば、アピールしなくても人は集まるというような感じがしております。

それから、私が書いた絵本のコーナーだとか、親子の子育てコーナーは、大作委員がおっしゃったように、コミュニティをつなぐというところが一番大事なのではないかと思っているものですから、市民の学びの場のところもそうなのですが、コミュニティをつなぐ場の設定というのはこれから大事になるのではないかと思っております。

以上です。

○**野末委員長**　ありがとうございます。多分、まだ大丈夫ですが、大丈夫ですか。

○**柘委員**　大丈夫です。

○**野末委員長**　ありがとうございます。柘委員をラストバッターにさせていただいてよかったと思います。ほかの委員のコメントを踏まえながら、うまく

まとめていただいたというように受け止めています。せっかくですので、今の
枅委員の御発表、御意見、あるいはまとめに対して、御感想、御意見、御質問、
いかがでしょうか。多分、ちょっと大丈夫なので、いかがでしょうか。進藤委
員、どうぞ。

○進藤委員　　今、皆さんのお話を聞いていて、地域の人をつながり、交流の
きっかけを作る、コミュニティをつなぐというところが共通したものかなと思
います。そういうところをどうしていくかということは、一つ、大きな柱かな
と思いました。

○野末委員長　　ありがとうございます。コミュニティをつなぐって、いい表
現ですね。皆さんが思っていることをぎゅっと集約して……。今の枅
委員の御発言を、次回、議事録になったときに、そこから私がピックアップし
て論点を作るということになると思うのですが、非常にきれいにまとめていた
できました。

ほかにいかがでしょうか。今、枅委員がおっしゃってくださったように、ど
うも皆さんのお話になっていることというのは、かなり共通したところがあっ
て、ある方向を向いているのだろうと思います。それが長期的なものか、短
期的なものか、お金がかかる、かからないとか、そういうことはあるのだと思
うのですけれども、何となく、我々としてはうまくまとめていく方向になるの
かなという印象を受けました。

1個だけ、枅委員にお伺いしてよろしいですか。2点目の、「子どもの本に出
会う場」と書かれている部分なのですが、ここにお年寄りという言葉をあえて
お使いになっている、その意図というか、背景というか、ちょっと御説明いた
だくと有り難いのですが。

○枅委員　　……このごろ、すぐ名前が出てこないのですよ。『サクリファ
イス』を書いた人。

○小池館長　　柳田邦男さんですか。

○**枅委員** 柳田邦男さん。すぐ出てこない。柳田邦男さんが、大人こそ絵本をというのを提唱されていて、それで私、荒川にいたものですから、荒川の図書館は柳田邦男大賞というのを設けているのです。そして、絵本から受けた感想を市民が寄せる。もちろん小中学生も、大人も寄せて、そして柳田さんが審査員になって、絵本大賞を決める。区長室にも絵本コーナーがあって、絵本を手にとれる。絵本からみんなで学ぶということをやっておられて、年をとればとるほど、絵本から感じるということのは大きいので、そういった方が読み聞かせを小さい子にしたら、お互いが豊かになるのではないかと。そういう意味で、そういった出会いの場を、コミュニティをつなぐというところにつながるかなと思っているところです。

○**野末委員長** ありがとうございます。異なる世代をつなぐというのも非常に重要な観点ですよ。そのときに、絵本を初めとする本というのはとてもいい媒体、まさにメディアになるのだろうなと感想を持ちました。その荒川の柳田邦男賞はいいですね。うちだと何ですかね。水木しげる賞とか妖怪賞とか(笑声)。

○**枅委員** 大賞は10万円の図書券です。

○**野末委員長** それは真剣に行きますね。でも、調布ならではのそのようなものも考えてもいいかもしれないですね。ありがとうございます。

それでは、議論は尽きないのですが、次回、論点を少し整理させていただきます。こんなお話が出ましたねということ、先ほどの枅委員の御発言を参考にさせていただきながら、少し整理をしたいと思います。次回は、この、全てを支えるのは人の問題だと思いますので、その人の問題を少しテーマとしていきたいと思っています。それから、論点整理を基に、もう一回全体を振り返るような時間もまた作りますので、今日、お話しされなかった部分であるとか、あるいは御質問、御意見、御感想をお持ちだったけれども、言い足りなかったところであるとか、そこでちょっと吸収をさせていただければと思っております。

場合によっては、事務局と相談いたしますが、高野委員から提案がありましたとおり、例えば地域資料なら地域資料というテーマを決めながら、少し自由に意見交換をする場所を設定することも考えさせていただきたいと思います。皆さん、お忙しい中ですので、余り御負担にならない範囲で、しかし実質的にそういうことができればよいなと思っております。

それでは、ありがとうございました。議題の第3号、また次回に続く、あるいはもしかすると宿題が出るかもしれないという含みを持たせたところで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、ちょっと急ぎ足になりますが、続いて議題の第4号「その他」、報告事項ですので、図書館の側から頂きたいと思います。まず「新電算システム稼働状況の報告について」です。斎木係長から御説明をお願いいたします。

○斎木係長　新電算システム稼働状況について報告させていただきます。お手元の資料2を御覧ください。9月26日月曜日から10月5日水曜日まで10日間、図書館は全館が休館いたしました。その期間に図書館のパソコンですとかサーバーですとか、そういうコンピュータの機器の入れ替えを行いました。

ただ入れ替えただけではなくて、中のシステムも更新いたしました。今までは、どちらかというところ、ちょっと古い世代のインターネットのホームページなどがあったのですけれども、そちらを今回、一挙に新しいものにリニューアルいたしました。

お手元の2の作業内容について、わからないことがあるかと思っておりますので、かいつまんで解説をしたいと思います。9月25日が開館の最後だったのですけれども、夜にサーバーを停止いたしまして、データの移行という言葉がありますが、中のデータを新しいコンピュータのサーバーに移す作業等を行いました。26日以降は機器の搬入、設置ということで、一度に全館の機械を入れ替えるわけにはいきませんので、中央図書館からスタートいたしまして、分館を4館ぐらいずつ、各館の機械の入れ替えを行いました。

具体的には、お手元の資料のとおりですが、10月に入りまして、今度は稼働のテスト、それから総合テストを実施して、10月3日の午後から新たにコ

ンピュータを稼働しまして、休館中にたまっていた本の整理や返却処理、それから新しいデータの入力、そういうことを行いました。それで、10月6日、朝9時に開館ということで、おかげさまで無事に作業を終わることができました。

そこで、既に10月6日から10日間ほど過ぎておりますけれども、その間に、たくさんの市民の方から、いろいろな御要望が寄せられております。そちらが3番の課題というところですが、簡単に申しあげます。

ホームページ・館内蔵書検索機ぴゅー太での予約手順の変更。こちらのほうは、今までなかった「予約かご」という方式がありまして、選んだ本を、まず一旦かごの中に入れて、それから予約の処理をするという手順に変わりました。今までのように1冊ずつ本を選んで予約をかけるという方法ではなく、一旦集めて、それをまとめて予約できるというような形になりました。上中下の本などは非常に予約が簡単にできるようになったのですが、なかなか新しい方式に慣れていただけなくて、問い合わせがありました。

(2) 館内蔵書検索機ぴゅー太の文字入力。こちらのほうもタッチパネルの操作が変わりましたので、なかなか慣れていただけないところがあり、問い合わせがありました。

(3) ホームページの表示スピードについて。開館初日が特にホームページを検索していただくと、遅かったです。そのために、やはり問い合わせがいろいろあったのですけれども、こちらはその後、7日、それから18日にプログラムの変更を行いまして、今のネットワークに合うような形で、大分スピードを改善しております。

そのほかにも座席管理システムということで、今まで手作業で5階の参考図書室などは座席の管理をしていたのですが、そちらをコンピュータ化いたしました。利用者の方にも協力していただきまして、思ったよりスムーズに利用していただいております。

簡単ですが、以上で御報告を終わります。

○野末委員長　　ありがとうございました。それでは御意見、御質問ある方は挙手をお願いします。いかがでしょうか。基本的には無事に完了したというこ

とだと思えます。お疲れさまでした。ありがとうございます。よろしいでしょうか。――それでは、議題の第4号のアを終了いたします。

それでは、次第には記載がないのですが、報告事項の追加1件ということで、先ほどもありましたが、水木しげるさんのコーナーについて、小池館長から御説明をお願いします。

○小池館長　　今、追加で配付させていただきました、「水木しげる氏のコーナーを設置しました」という図書館のホームページをカラー刷りでプリントしたものであります。1/2となっていますけれども、実質、情報はここだけですので、こちらの資料を使って説明をいたします。

図書館5階に、この写真にあるとおりのコーナーを設置しました。先日、休館日に工事をして、本も置いて、昨日からオープンしたという形になっております。昨年11月30日に水木さんが亡くなられたということの中で、かなりいろいろな反応もありましたけれども、図書館は「これまでの関係」のところにあるように、「図書館だより」の表紙画、また御寄贈いただいた資料を持っていることなどを含めて、浅からぬ縁ということの中で、こういうコーナーを設置しようというようになってきたところですので。今後も、ここに置かれているような本をさらに充実させていきたいと考えているところですので、もしお気づきのことがありましたら、お気軽におっしゃっていただければと思っています。

以上です。

○野末委員長　　ありがとうございます。それではただいまの御説明について、御意見、あるいは御質問がありましたら、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。こちらはまたぜひ直接御覧になっていただいて、お気づきの点がありましたら、図書館にお知らせいただければと思います。ありがとうございます。

これが議題の第4号のイということになりますでしょうかね。以上で終了とさせていただきます。ありがとうございます。

本日、予定しております議題は以上で全てでございます。ほかに何かござい

ましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

○松田委員 このガンクラブ・チェックの探偵姿も、じろちゃん、とてもかわいいと思います。

○福島副館長 ありがとうございます。

○松田委員 ちょっとチャーミングなので、着せ替えがあるといいかなと思いました。地味なので。

○野末委員長 ちなみにこれは、ほかにもバージョンがあるのですか。

○福島副館長 たくさんあります。何十種類と作っております。そのうちお披露目ができるかと思います。

○野末委員長 これは徐々にいろいろな着せ替えじろちゃんが登場するということですね。

○進藤委員 最近、一般のお母さんたちがじろちゃんのことを知っています。図書館、すごいかわいいキャラクターがあるよねと、あちこちでお聞きしますので、認知されてきていると思います。

○野末委員長 これはいい兆候ですね。控え目な図書館から、ちょっとPRを打って出る図書館へ。

○安本委員 私も今日、持ってきたのです。言い忘れていました。市内書店で、この本（「き・まま」）を買ったのです。調布の図書館はこのあたりで一番力を持っていると書いてある。でも、一見普通だと書いてあります（笑声）。

○野末委員長 でも、その一見普通だというのがいいですね。奥が深い感じ

がして、とてもいいと思います。これからじろちゃんですべて打つて出るので、多分、大丈夫だと思います。ありがとうございます。

それでは、ここで福島副館長から、お願いします。

○**福島副館長** 野末委員長からもちょっとご紹介していただいた、「としょかんめぐりのシールブック」ということで、10月15日から始めています。じろを通して図書館を知ってもらおうということで、今、後方に用意をしておりますが、じろののぼりも、図書館では紙でつくっていたのです。そうしたら調布市文化・コミュニティ振興財団が、紙ではなくて、普段のお付き合いもあるのでと言って、布ののぼり旗を10本作っていただきました。この前、15、16日の記念展示会のときに、1階のステージや会場でのぼり旗を立て、にぎにぎしくPRをしたところです。

あと、これが50周年記念で作ったおおきなかぶの遊具です。分館を回ってきました。どこの館でも、おはなし会では大人気で、子どもたちは「うんとこしょどっこいしょ」をやってくれたそうです。こういうのも巡回したのですが、今は各図書館のカウンター、中央図書館4階のカウンターで、このシールブックを配っています。各館でシールが違うのですけれども、全館違うじろのシールがありますから、それだけで11あるのですが、それを3館分集めたら、50周年の鬼太郎のしおりではなく、じろのしおり、これも今、私、4種類持ってきましたけれども、実はもう少しできています。いろいろな種類があって、それを1枚差し上げますという形で行っています。3館だったら、お子さんでも割合無理なく行けるということで、3館という設定にしました。そうするとしおりが1枚もらえるよと言って、ぜひ行ってもらいたいと思っています。もらったその日に3館行ってしまうという方も結構いらっしゃるようです。今、各館で配っています。皆さんも、4階のカウンターに行くとシールがもらえますので、帰りには寄っていただけたらと思っています。

あと、もう1つ配ったしおり、こちらが50周年の記念のしおりということで2種類、5万枚ずつ作りました。これを10月から配り始めまして、なくなるまで配り続けたいなと思っていますが、水木プロの御快諾を得て、イラストを使わせていただいて、作らせていただきました。

1つ、図書館も少しPRを頑張らなくてはと思ってやってはいるのですが、市報の紙面も、いろいろな課が載せたいというところなのですが、今度、11月5日号の最後のページ、裏表紙、12面というところが、図書館が一面、50周年の記念で場所をいただきました。今、最後の調整をしているところですが、図書館の案内をしていますので、ぜひまたそれを見て、次のときにはこんなことを載せたらなどということも言っていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○野末委員長　　ありがとうございました。

○陸委員　　どうやったらもらえるのですか。

○福島副館長　　このしおりはカウンターで配っています。4階、5階、どちらでも大丈夫です。分館のカウンターでも配っています。じろのお手製のしおりは、シールを3枚集めると、どこでもいいです。今日、中央図書館に行って、お近くの分館2館に行ってくださいれば、このシール3枚もらいましたと言うと、では、しおりはどれがいいですかと言って、1枚差し上げます。

○陸委員　　9館回ったら？

○福島副館長　　9館回ったら3枚です。御家族で回ったら6種類もらえるかもしれません。

○野末委員長　　ありがとうございます。斎木係長が一生懸命、上を支えているので、そろそろ……。

我々もずるは無しですので、皆さん、回っていただかないと、じろのしおりは手に入りません。でも3館だと、調布はちょうど歩けるぐらいのところに分館がありますから、ちょうどいいのではないかと思います。ありがとうございます。

何を隠しているのかなと思っていたら、いろいろ出てきましたね（笑声）。

○小池館長　　これはおおきなかぶでありまして、「うんとこしょどっこいしょ」は派生的に……

○福島副館長　　かぶの遊具ということですが。これもボランティアの方たちが作っていただきました。普段、布の絵本を作ったり、修理をしてくださっているグループの方たちが作っていただきました。

○野末委員長　　これは日本で一番大きい図書館資料ではないですかね。ありがとうございました。

それでは、図書館が控え目なところからアピールに転じていることがわかったところで、済みません、進行が悪くて、お時間になってしまいましたので、ここで議題は全て終了とさせていただきたいと思います。

事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局（島田）　　連絡事項でございます。

次回の開催につきまして、平成29年1月19日木曜日、午後2時から、会場はこちらの文化会館たづくり9階研修室を予定しているということになっております。ここに御出席の皆様の御都合がよろしければ、この日に確定したいと思いますが。

○高野委員　　動かしていただくとしたら、どこになりますか。

○事務局（島田）　　予備として御用意しているのは、2月9日になります。

○高野委員　　そうですか。ではいいです。調整します。

○事務局（島田）　　ありがとうございます。ほかの委員の方、よろしいでしょうか。――では、平成29年1月19日ということでお願いいたします。

最後に、本日の議事録の署名委員についてです。名簿の記載順で、今回は高野

委員にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○野末委員長　ありがとうございました。それでは、ちょっと過ぎてしまって申しわけありません。委員の皆様には議事の進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。私もコメントを端々に挟ませていただいて申しわけなかったのですが、議事録をしっかりとっていただくと、端々に話したことが論点になるので、後でまとめやすいので、すみません、ちょっと口数が多かった点はお許してください。

それでは、以上をもちまして平成28年度第3回調布市立図書館協議会を終了いたします。ちょっとオーバーして大変失礼いたしました。どうもありがとうございました。

—了—